

外国人と共生現状探る

静岡で シンポ 企業取り組みなど紹介



県内で働く外国人が体験を紹介したシンポジウム
 29日、静岡市葵区

外国人財 しずおか

県は29日、外国人を含めた県民が暮らしやすい地域社会を目指す「ふじのくに多文化共生推進シンポジウム」を静岡市葵区で開き、進行役の池上重弘静岡文化芸術大副学長は近隣住民との交流が少ない技能実習生の事例を示した上で、在留外国人増加に地域が対応する必要性を指摘した。

「外国人財 しずおか」
 県は29日、外国人を含めた県民が暮らしやすい地域社会を目指す「ふじのくに多文化共生推進シンポジウム」を静岡市葵区で開き、進行役の池上重弘静岡文化芸術大副学長は近隣住民との交流が少ない技能実習生の事例を示した上で、在留外国人増加に地域が対応する必要性を指摘した。

フィリピン人やベトナム人が働く平野ビニール工業(磐田市)の平野利直社長も登壇し、技能実習生を地元の清掃活動や防災訓練、祭りに参加させ、地域との結び付きを重視する取り組みを紹介。工場内では外国人従業員の母国の国歌を流すことで「音楽による多文化交流を行っている」と説明した。

外国生まれの日本育ちで、現在は県内企業で働く若者3人はパネル討論形式で、日本語を学ぶのに苦労した経験などを振り返った。

シンポは、入管難民法改正に伴う外国人労働者の受け入れ拡大を受けて企画。行政や企業から約200人が聴講に訪れた。